

2025
12.3 (水)12:10
12:5012:10-12:15 ◆発表者紹介
12:15-12:40 ◆プレゼン
12:40-12:50 ◆質疑応答オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_CvQmjYVpQ9ytM4-cYYZ5AQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

「気候変動下における死亡率と健康の季節性
- 変化する動態をどう捉えるか」

Key Words

季節性

気温

死亡率

健康

気候変動

マダニヤズ リナ 准教授

長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究科

マダニヤジ・リナ博士は、気候変動、極端気象、大気汚染が健康に与える影響を専門とする環境疫学者です。2016年にクイーンズランド工科大学で環境疫学の博士号を取得し、北京大学では環境疫学の修士号および医学学士号を取得しました。時系列解析や分布ラグモデルなどの高度な統計手法を用いて、大規模な環境と健康に関するデータを分析しています。これまでに、国際共同研究「Multi-Country Multi-City (MCC) プロジェクト」や「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に貢献し、『The Lancet Planetary Health』や『International Journal of Epidemiology』などの国際誌に研究成果を発表しています。

現在は長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科に所属し、国内外の研究資金を得て複数のプロジェクトを主導するとともに、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（LSHTM）との共同博士課程を共同運営しています。

近年の受賞歴には、国際環境疫学会アジア・西太平洋支部のYoung Investigator Award、長崎大学インパクト論文賞、未来に羽ばたく女性研究者賞、北京大学より優秀卒業生表彰を受けています。

死亡率の季節変動は広く報告されており、冬季に高く、夏季に低い傾向が一般的である。このパターンには、気温、感染症の流行、人口の脆弱性など、複数の要因が関与している。多国間分析では、特に温帯および大陸性気候地域において、気温がこの季節変動の大きな割合を説明していることが明らかとなった。

気候変動シナリオの下では、気温の上昇により暖季の死亡が増加し、寒季の死亡は減少すると予測されるが、寒季の死亡率は依然として高い水準にとどまると考えられる。

日本における高齢者の救急搬送の将来予測では、2040年代までに年間搬送件数が約15%増加し、冬季に集中していた季節パターンが、冬と夏の両方にピークを持つ二峰性へと移行することが示唆された。

これらの結果は、温暖化と高齢化が進行する中で、保健医療体制がサービス需要の増加と変化する季節的健康リスクに対応する必要があることを示している。